



第13回日本感性工学会春季大会・特別講演 I

感性 × カーデザイン

イタリアのトリノ市は、2005年から名古屋市と姉妹友好都市の関係にあります。トリノはFIAT、名古屋はTOYOTAと共に成長してきた歴史があり、どちらも自動車産業とご縁が深い街です。

トリノには自動車ボディをデザインする「カロッツェリア」と呼ばれる工房がたくさんあり、美術工芸品のような美しさを持つクルマや才能あるカーデザイナーたちを数多く輩出してきました。一方、日本の自動車メーカーが生み出してきたクルマは、工業製品としての機能性や耐久性、そして安全性や信頼性が世界最高水準にあり、その水準を確実に満たしつつ、クルマの新しい価値創造を目指してきたのが「LEXUS」というTOYOTAのブランドです。

この特別講演 I では、世界で活躍のお二人のカーデザイナーをゲストスピーカーとしてお招きし、それぞれのクルマづくりの特長を詳しくご紹介いただきます。続くトークセッションでは、カーデザインやモノづくりの未来について、会場の皆さまと共に考えてみたいと思います。

◆プレゼンテーション

「イタリア・カロッツェリアのクラフトマンシップ」 内田盾男 氏
 「唯一無二のデザイン創造への挑戦 -レクサスLSの開発-」 須賀厚一 氏

◆トークセッション

「カーデザインの行方」 内田盾男 氏 × 須賀厚一 氏 (モデレーター：川澄未来子)



内田盾男 (イタリア・トリノ在住 カーデザイナー)

学生時代にイタリア・トリノのカーデザイナーであるジョヴァンニ・ミケロッチと出会ったのがきっかけで単身でトリノへ渡り、50年近く在住。カロッツェリアMichelottiのチーフデザイナーを経てFORUM社を設立し、現在までに数多くのデザインコンサルティングを行う。トリノ-名古屋の姉妹都市提携や交流事業の支援でも活躍。著書に「ラ・ミア・マッキナー僕が知っているイタリアの素敵な自動車人たち」(NAVI BOOKS)。



須賀厚一 (レクサスLS プロジェクトチーフデザイナー)

1988年トヨタ自動車に入社後、外形デザイナー筋に生産車両の開発に従事。アメリカ・カリフォルニアのArt Center college of Designへの一年間の留学を経て、2001~2004年にフランス・ニースにあるデザインスタジオへ出向し、デザイン開発およびリサーチ、戦略策定などを担当。ヨーロッパではAURISのデザインやIQの先行開発を担当し、帰国後は2010年よりレクサスデザインへ移動し、昨秋発売された新型LSのチーフデザイナーを担当。



川澄未来子 (名城大学 理工学部 准教授)

1988年豊田中央研究所に入社後、塗装の深み感などの感性品質の計測・評価の研究に従事。愛知淑徳大学教授を経て2011年より現職。専門は色彩工学で2016年より日本色彩学会東海支部長。2014年より自動車メーカーと協同シタイでの研究・教育活動にも注力。博士(工学)。

3月27日 (火) 16:30~18:30 S会場

※当日午後は、レクサスフラッグシップモデル・新型LSの実車をご覧ください！
 匠の技術を会場ぜひ身近に体感して下さい。

